



『スパークス 日本株長期投資のすすめ』

スパークスの株式投資、株式市場などに対する見方を紹介するコラムです。

第46号(2009年4月24日)

「下落時の運用の重要性」

今回は、アメリカのあるミューチュアルファンドをご紹介します。そのファンドとは、1970年に設定され、約40年間にわたり素晴らしい成績を残しており、現在でもモーニングスター社からファイブスターの評価を与えられている有名老舗ファンドです。

このファンドは、もともとウォーレン・バフェット氏が、1960年代終わりの相場過熱感から、自身のパートナーシップをクローズして資金償還することを決定した際に、運用継続を希望する既存顧客向けに彼の友人を紹介したのがきっかけとなり設定されました。彼もバフェット氏同様、バリュウ投資の祖であるベン・グラハム氏の講座をコロンビア大学で学び、株式相場のトレンドをみることも、個別企業のビジネスを分析することにより優れた投資実績をあげた人物です。

ファンドが設定された70年代初頭は、第一次石油危機が起こり、株式市場の大幅な下落が起きていたため、株式投資でリターンをあげるの是非常に困難な時期でした。しかしながら、同ファンドは一貫した投資哲学・運用スタイルのもと、素晴らしい成功を収め、2008年末時点では株式市場の過去39年間における平均年間上昇率9.9%をはるかに超える年率13.9%のリターンを達成しています。もし仮に設定当初100ドル投資した場合、米国株式市場に連動するインデックスファンドでは39年間で元本が約40倍に増えたのに対し、同ファンドで運用した場合はそれが約160倍になったわけです。複利における年間4%の超過リターンは、長い年月を経て大きな差になって現れていると言えます。

さらにこのファンドの特徴として、下げ相場の年ほど運用成績が良く、損失を最小限に抑えたことで市場平均との長期格差を拡大させていることがわかります。実際、過去39年間におけるファンド成績と株式市場全体を比較してみると、上げ相場の年が30回あったうち、ファンドが市場平均を上回ったのは16回と約半分の“勝率”であるのに対し、下げ相場の年では9回のうち7回は、より小さい下げで済む(02年や08年のケース)か、もしくは市場全体の下落に反してプラスリターンの成績(77年、81年、00年、01年のケース)を実現しています。

(注) 本コラムは、マネックス証券Web-Site「マネックスラウンジ」の「マネックスメール」に掲載されている「スパークス・アセット・マネジメントの『SPARX Way』」をもとにスパークスが作成したものであります。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。